



本会記事

■女子中高生夏の学校 2020 オンラインへの貢献

芦川直子 (核融合科学研究所)

例年、8月上旬に女子中高生夏の学校 (以下、夏の学校) が国立女性教育会館 (埼玉県嵐山町) で開催され、プラズマ・核融合学会では2015年からキャリア相談等のイベントへの展示、参加を行ってきた (これら詳細は、過去のプラズマ・核融合学会誌を参照、例えば2019年10月号)。しかし、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、初めてオンライン (リモート) にて実施された。

これまでは男女共同参画学協会連絡会からプラズマ・核融合学会 男女共同参画委員会への依頼を通じて夏の学校への貢献を行ってきたが、今年は実施母体であるNPOからこれまでの夏の学校の経験者 (個人) に対し、個人への依頼として協力要請があり、引き受ける事にした。しかしながら、下記に述べるようにコンテンツ等はプラズマ・核融合学会 男女共同参画委員会の協力を必要としたため、本委員会が貢献したイベントの一つとして報告をする。

本学会 男女共同参画委員会でのコンテンツの準備

国立女性教育会館で実施される際には、各学会・団体による「ポスター展示」、および進路相談「Gateway 企画」に本委員会から貢献を行ってきた。今年はポスター企画の代わりとして、約20名によるWEBポスター欄が新たに準備された。また、このWEBポスター欄にリンクの貼り付けも可能であったので、本学会 男女共同参画委員会で相談の上、新たに本委員会内に専用ページを開設するとした。

夏の学校2020オンラインが8月に実施されるため、それに併せて基本的には既存コンテンツの改訂を主として進めた。具体的には、今まで現地開催用として使用していたポスターの改訂、核融合に関連するYouTubeやWEBサイトのリンク集、等である。また、今回の企画に併せてシニア女性研究者からの新たな寄稿をお願いし、笹尾真実子先生、加藤隆子先生の2名から新たに心温まる寄稿文をご準備いただいた。図1に本学会 男女共同参画委

員会内の専用ページの一部、および先生方からご提供いただいた写真を示す。また、今年プラズマ実験が開始されるJT-60SAや、トロイダル磁場コイルの搬入が順調に進むITERに関する最新の写真もポスター改訂の際に盛り込むようにした。これらは夏の学校への対応で例年お世話になっている量子科学技術研究開発機構 (量研機構) ITER人材・広報戦略グループの會澤さんにご相談させていただくとともに、量研機構 広報担当部署にもご協力をいただいた。

WEBページのデザインは本学会の北澤さんが担当し、企画のスケジュールにあわせ8月7日までにすべての情報が掲載された。夏の学校は8月末までを開催期間としているが、後で述べるように関連書籍の追加掲載の予定が近日中にあるため、現段階では同じフォーマットのまま掲載を続けている。今後、コンテンツの追加やポスターの再改訂の予定もあるため、初心者への資料提供や学生勧誘といった目的は維持したまま、WEBサイトの改訂を秋以降の時期に予定している。 <http://www.jspf.or.jp/genderequality/poster/>

当日の対応

筆者が対応したのは、8/16 (日)、8/23 (日) の19時から20時の間に高校生らを相手にした面談である。現地開催では、中高生が混在してポスター展示を訪れるが、今年のオンラインでのキャリア相談は高校生に限定されていた。会話はZoomのブレイクアウト機能を使って、15分毎の面談時間として設定された。筆者などのキャリアアサポーター (CS) が1グループあたり2名、それに対し高校生が1ルームあたり1-3名の生徒となるよう割り振りがされた。CS側は所定の時間にZoomを立ち上げて待機すればよく、夏の学校2020オンライン事務局 (以下、事務局) 側の切り替えで個々のルームに割り振りが行われた。筆者は8/16と8/23をあわせて7名の高校生の対応を行った。この企画は、現地開催の場合には夕食後に座談会方式で行われる進路相談の代わりとして設定されたものと思っていたが、実際にはポスター展示での研究説明も兼ねたような機会となった。オンライン開催に



図1 本学会 男女共同参画委員会のWEBサイト内に作成した専用ページの表紙、およびシニア研究者の寄稿に関連しご提供いただいた写真。

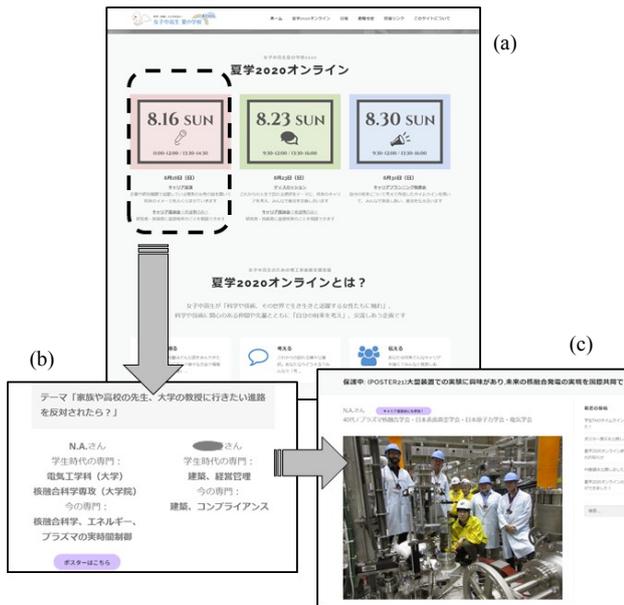


図2 女子中高生夏の学校2020が作成したオンライン開催用のWEBサイトの一部。日付(a)やテーマ(b)をクリックすると、個別のWEBポスター欄(c)が閲覧できる。
補足：夏の学校2020オンライン事務局にご相談し、これらWEBページの一部のコピーを筆者に関する部分を中心に、学会誌での報告のため使用させていただくことをご了承いただいた。

あたり、事務局とCSはSlackも併用した。事前の段階ではこの併用の利点を感じていなかった。しかし、Zoomのブレイクアウト機能で個別ルームに入ってしまうとチャット機能はルーム内のメンバーのみになってしまうため、並行して事務局に問い合わせをする際にはSlackが利用でき、これは便利であった、また面談後のレポート共有でもSlackが便利であった。

キャリア相談では、冒頭、2名のCSが簡単に自己紹介を行い、その後生徒からの相談の聞き取りを開始した。自己紹介では、その場で使用するためのフォーマットがパワーポイント1枚で指定された。また、図2(b)で示すような個々のルームが担当する課題(悩み)が設定され、高校生が選んだ課題を元にルームの割り振りを行っていたようだが、実際にはあまり関係なく、私が対応した高校生の半数は一般的な漠然とした進路に関する相談であった。これは現地開催の場合でも同様で、その理由は、今回の参加者は高校生と指定されているが実際は高校3年生になれば受験勉強が忙しくなるので、具体的な大学名がまだ未決定な状況にある高校1-2年生の参加が多いためである。そこで、例えばAに興味があるがどのような学科(学部)に行ったら良いか、Bという学科に進学したら、どのような仕事になるのか、といった話になる。また、これまでに見聞きした話題から進路を

検討している生徒が多く、今年は遺伝子組み換えやウイルスといったキーワードが多いと感じた。このような時事キーワードによる進路希望は、例年見受けられる傾向にある。

参加した高校生から具体的に核融合に関する書籍を知りたいといった質問があった。その場の対応時間内で紹介するのは難しいため、事務局を通じて本学会内のWEBサイトアドレスを伝えていただき、その中に書籍の紹介欄を掲載し後日閲覧してもらうということにした。その高校生は加速器と核融合に興味があるという話だったが、面談した数少ない高校生の中から具体的に核融合という言葉が出たことは、とても喜ばしいことだった。

感想

今年の夏の学校2020オンラインの企画は8月中の3日間設定され、当日は午前中から夜まで講演などのイベントが計画されていた。各イベントの間には休憩が設けられるので、現地開催では合宿形式のため人数把握は容易なのに対し、特に相談会は19時から20時に設定されていたので、事前に参加予定していた生徒が確実に再接続してくれるのか、事務局は人数の把握に苦慮していたのではないと思う。

CSに対しては、事前にWEBポスター欄の作成依頼、自己紹介用のパワーポイントなど、コンテンツの準備依頼があった。時間的な制約もあり、当日の対応ではこれらの一部しか利用できなかった。しかし改善の余地はあるものの、実際に核融合の書籍に関する質問をした高校生はCSの専門を確認した上で面談課題を選択したと思われるように事前にこのような資料の準備は有益だと思う。

参加した生徒プライバシー保護のため、参加者は高校生、CS共に愛称を表示した。また、面談後にCSが高校生に対して直接連絡を取ることが無いよう、注意喚起もされていた。キャリア相談会に関するCSのWEBポスター欄は、パスワード管理されており、夏の学校への参加申し込み者のみが閲覧できる形式にしていた。現地開催でも同じ理由により生徒に対し個々の大学や学会への個別勧誘をしないよう注意喚起している。今回は、ネット上でのやり取り故に表示方法などを色々と熟慮をしたのではないかと想像する。

現地開催でポスター展示をする場合は、今回のリモート開催に比べて直接会話できる中高生の数はより多い。しかし、リモートではCSと生徒が1-2名ずつで対話するという形式で、現地開催よりも短時間だが密接に会話ができるという場面もあり、リモートならではの利点のある夏の学校であったと思う。

(原稿受付：2020年9月11日)